



## 好事例 file. 5

そうかがわらこうぎょう かぶしきがいしゃ

# 創嘉瓦工業株式会社

- 所在地：愛知県高浜市豊田町1丁目5-5
- 業種：粘土瓦製造業
- 設立：1948年
- 電話番号：0566-52-2215 ■従業員数：55名
- HP：<http://www.souka.co.jp/>

## 人を迎え入れる体制と、 誇りある仕事

愛知県高浜市を中心に生産される三州瓦は、全国の粘土瓦生産のうち7割のシェアを占めています。その一員であり、素材感を美しい銀色で表現する「純いぶし瓦」を生産している「創嘉瓦工業株式会社」は、1995年（平成7年）頃から毎年新卒者の採用を続けています。



### ❁ 純いぶし瓦の可能性を広げる

成形、焼成、燻化を経て、美しい「いぶし色」で完成する「純いぶし瓦」を自社プラントに持つ創嘉瓦工業は、製品の多くをオートメーションで生産することに成功し、安定的な生産を続けています。また、愛知県陶器瓦工業組合および三州瓦工業協同組合の組合員として、自社ブランドのみならず、三州瓦全体のPRにも尽力しています。

### ❁ 労務環境を改善して若手獲得に挑戦

創嘉瓦工業は、1993年（平成5年）に第一工場を改築し、2004年（平成16年）には第二工場を改築しています。それぞれ大規模な投資に踏み切った大きな理由のひとつに、**労務環境の改善**があったと、同社代表を務める石原順二さんは話します。「いかに週休二日制を確立するかという課題を解決するため、大きなストックヤードを擁する工場にしました。様々な事情で今のところ4週7休ですが、業界ではこれにいち早く取り組んだ点が、特徴的かもしれません。



優しい笑顔の石原順二代表取締役。

第一工場の決断は先代で、第二工場の決断は私でした。決心するには相当悩みましたが、今ではやって良かったと思います。**良い人材を確保するためには、週休二日制が望まれる時代**になっていましたし、労務環境の改善は常々必要だと感じていましたから」。こうして体制を整えた同社はそれ以降、高卒者、大卒者を含めて、23年間に渡って毎年新卒者を採用することに成功し続けています。

### ❁ 組合の活躍と業界の課題

人材採用において、石原社長は組合の役割も大きいと話します。「我々が所属する組合は、共同での求人、説明会、研修など、人材の点でも幅広くサポートしてくれています。学校で就職を担当する先生との繋がりも自社だけよりは接触がスムーズにできますから、そういった組合の活動は、非常にありがたいことだと思います」。

また一方で、組合と協力して取り組む課題も明確だと続けます。「和瓦の需要が減っていくご時世にあって、自社ブランドだけでなく、三州瓦や瓦そのもののPRにも力を合わせて取り組む必要があると思っています」。



大規模なストックヤードを設置することで、社員がしっかりと休める環境づくりに取り組んだ。

❁ 自社製品に誇りを持つことも大事

人材採用の実績を重ねる中で感じた大切な心構えを、石原社長は教えてくれました。「これは自戒の意味も込めての話です。私もかつては『うちみたいな中小には、若い子は来てくれない』と考えていました。しかし、うちの会社はこういう会社ですと**自社製品に誇りを持って、胸を張って訴えれば、実際に、若い方々のご縁ができる**ようになりました」。

なお、創嘉瓦工業では、社で主催する慰安旅行・研修旅行では、ただの懇親会で終わらないよう、自社製品を使用している建物・施設の見学を、積極的に組み込んでいるそうです。「最近では隔年で1泊旅行を企画していますが、自社製品がどのように使われているかを見られる見学ルートを設定します。社員が仕事に誇りを持って取り組めるように、との考えからです。そもそも有益な製品を作っているから

こそ会社が存続しているはず。やはり、誇りを持って仕事をするのが大切だと思います」。



日頃から石原社長は若手社員とのコミュニケーションもしっかり取っている印象を受けた。

interview

若者インタビュー



品質管理課 柘植理加さん

まったく分からない状態からでも大丈夫

情報処理の高校を卒業して創嘉瓦工業に就職した柘植さんは、新

卒採用から6年目を数えます。就職前には、仕事内容がどのようなのかは深く調べず、求人票の情報だけで「できそう」と感じたそうです。「現場仕事の方が向いているかなと思って、何となくこの会社を選びました。最初の3年間は製造の現場を経験し、それからは品質管理の仕事を担当しています」。

彼女は現在、生産された瓦の検査や、日報の入力、製品データの作成などを、課の上司を含め4人で担当しています。「私自身が、**まったく分からない状態か**

らこの仕事を始めています。

上司や先輩から優しく教えていただいて、徐々に仕事を覚えることができましたので、後輩が不安に感じるなら、大丈夫だと教えてあげたいです。今の仕事もまだまだ勉強中ですから、早く一人前になりたいです」。



製造第一課 末光竜輝さん

コンクール参加をきっかけに応募

美大を卒業し、4月から晴れて新入社員となった末光さんは、大学

時代にあるコンクールへ参加したことが、創嘉瓦工業を知るきっかけになったと話します。「『飾り瓦コンクール』というイベントがありまして、学生時代に私も作品を出展しました。月日が経つと、自然に風格が増す瓦の美しさに芸術的な魅力を感じています。就職先を探す際には大学に来ていた求人票ではなく、ハローワークなどで自力で探していたのですが、その中で実行委員の一員としてコンクールの開催に携わっている創嘉瓦工業を知って、ここで働きたいと感じました」。

就職から数ヶ月が経ち、現在は研修のような形で各部署を経験している末光さん。「今はまだ覚えることがたくさんある状況ですが、やがては仕事をよりスムーズに回せるような、まとめ役のような立場で活躍したいと思っています」。

